

令和元年度第1回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：令和元年6月24日（月）

午前10時30分～

場所：東温市役所4階 403会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

（1）平成30年度事業報告並びに令和元年度取組概要について・・・【資料1】

（2）地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について・・・・・・・・・・【資料2】

（3）みんなの公共交通を考える会の活動報告について・・・・・・・・・・【資料3】

4. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】平成30年度事業報告並びに令和元年度取組概要

【資料2】地域内フィーダー系統確保維持計画（案）

<当日配布資料>

【資料3】みんなの公共交通を考える会の活動報告

令和元年度第1回

東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）出席者名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	大石 秀輝	
2	株式会社伊予鉄グループ	取締役	大政 憲司	(代理) 竹中 由紀夫
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	稲荷 和重	
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	田所 秀志	
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	上岡 大悟	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	青井 浩治	
8	東温市産業建設部	部長	丹生谷 則篤	
9	東温市区長会	会長	三棟 義博	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	田中 康雄	
11	東温市婦人会	会長	高須賀 恵美子	
12	東温市PTA連合会	顧問	松本 司	(欠席)
13	東温市社会福祉協議会	会長	藤原 弘	
14	市民の代表（公募）		藤本 貞夫	
15	市民の代表（公募）		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	石丸 友健	
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	寺田 淳泰	
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	西山 保幸	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	菊池 勝二	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	原田 久	

令和元年度第1回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 令和元年6月24日(月) 10:30~11:30

会 場： 東温市役所 403 会議室

1. 開会

進 行： これより令和元年度第1回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 平成30年度事業報告並びに令和元年度取組概要について

事 務 局： <説明(資料1-1)、(資料1-2)>

会 長： 何か質問等はあるか。

藤 本： 予約制乗合タクシーに関して、平成30年度から本格運行を開始したとのことであるが、利用実績や、運行経費はどのようになっているか。

事 務 局： 平成30年度の実績では、運行事業者に対する補助金額が205,340円、総利用者数が390人、1便あたりの平均利用者数が1.7人、平均稼働率が44.8%となっている。平成31年度予算としては、348,000円を計上している。

藤 本： 平均利用者数1.7人ということは、目標を下回っているということか。

事 務 局： 平均としては下回っているが、一度2.0人を達成できているため、本格運行に移行している。利用状況については今後も注視し、目標を下回れば、地元にも説明に行きたいと考えている。

横 手： 高齢者の事故が多く取り上げられているが、東温市内では、高齢者の事故があるのかどうか状況がわかれば教えてほしい。また、80歳以上の方の交通事情などを把握することが大切だと思う。アンケートなどを取ったりして、そのような状況がわかってから、交通の計画などを立てることが大切だと思う。

会 長： 最近全国的に高齢者による事故が多発している。高齢者に関する事故等で、最近の状況などがわかれば南署交通課長さんに教えていただきたい。

石 丸： 県下の交通情勢では、人身事故の発生件数、けが人、死者、全て減少傾向にある。実は、高齢者の事故も同様に減少傾向となっているが、減少率については、全体の減少率より、緩やかな減少となっている。幸いなことに県内では、全国で報道されているような悲惨な事故というのはないが、高齢化率もさらに高くなっていくにつれて、高齢者による事故が増えるということは予想される。現在警察側で話にあがっているのが、限定付き免許の導入である。どうしても車が必要な人には乗っていただかなくてはならないが、そのためには安全対策をしなければならないというものである。車の事故は、人的ミスによる事故が大半であることから、サポートカーなどによる事故防止策を国としても考えている。あわせて、公共交通を利用できるのであれば、免許の自主免許も勧めるといふ、車を乗り続ける人と、免許を返す人という両輪でのサポートが大切である。

会 長： 福祉関係の部署になるかもわからないが、横手委員が先ほどおっしゃられた高齢者の最近の現状なども次回の協議会までに事務局で調べて報告してもらえたらと思う。老人クラブ、婦人会、社協の皆さん、関連してなにか報告事項等はないか。

藤 原： 社協に関しては、マイクロバスの利用が多くなっている。我々のような高齢者は、今後免許を返納するか、また、免許を返納してもこれからの移動手段についてどうするかということを考えなければならない。

会 長： それでは続いて令和元年度の取組概要についてなにか質問等はあるか。

藤 原： パーク&ライドの推進についてだが、利用可能な施設というのはあるのか。

事 務 局： 以前広報に利用可能な施設の募集を呼びかけたが、問い合わせはない。今後はこちらから直接利用可能かどうか施設に働きかけることも検討している。

横 手： 以前、市役所のパーク&ライドを利用したときに、夜10時くらいだったのだが、周りが真っ暗でなにも見えないような状態だった。利用可能な時間の間だけでも明かりをつけておいてもらえると非常にありがたいと思う。

会 長： そのあたりはまた管財係と話をして、事務局で検討してもらえたらと思う。

藤 本： 平成30年度の事業報告と令和元年度の取組概要を比較したときに、予約制乗合タクシーの利用促進の取組については、令和元年度の取組概要には入ってこないのか。

事 務 局： 何もしないというわけではなく、資料1-2の2ページ目の最後にも書いているが、取組概要に入っていないことでも、随時検討・実施を行うこととしている。

会 長： 他に意見や質問等はないか。

各 委 員： <質問・意見なし>

会 長： なければ、平成30年度事業報告、令和元年度事業計画についてご承認いただけるか。

各 委 員： <全員賛成>

会 長： 承認いただいたので、以上で平成30年度事業報告及び令和元年度事業計画について終わる。

(2) 地域内フィーダー系統確保維持計画の策定について

事 務 局： <説明(資料2)>

会 長： 何かご質問等はあるか。

藤 本： 計画案の10のところに協議会メンバーの構成とあるが、運行区域内の住民の意見を聞くために、区長さんや地域の代表の方をメンバーとして入れてみるのはどうか。

会 長： 協議会の規約の関係等もあると思うが、地元の区長さんに話を聞く等色々方法はあると思うので、次回の協議会までに事務局の方でできるかどうか検討してもらえればと思う。

会 長： 他に何かご質問等はあるか。

各 委 員： <質問・意見なし>

会 長： ないようなので案のとおり計画を決定し、国に申請することとしてよいか。

各 委 員： <全員賛成>

会 長： 承認を得られたので、案のとおり計画を決定し、国に申請を行う。

(3) みんなの公共交通を考える会の活動報告について

事務局： 続いて、本日まで出席いただいている、横手委員に「みんなの公共交通を考える会」の活動報告をしていただく。その前に簡単に、「みんなの公共交通を考える会」について説明させていただく。「みんなの公共交通を考える会」は、平成18年6月に市内の公共交通をもっとよくしたいと願う市民の方々により設立された。会の設立後は、直接公共交通の利用者や、高齢者の話を聞きに高齢者サロン等を訪問され、利用しやすい公共交通体系を構築するなど、様々なことに貢献されてきた。最近では公共交通を使った路線バスツアーを多く開催され、その様子が新聞に掲載されるなどますます活動の場を広げていらっしゃる。本日は、平成30年度の会の活動報告と、今年度の取組予定についてお話しいただく。

横手： <説明(資料3)>

会長： 公共交通と観光地を絡めた、様々な取組をしていただき、感謝申し上げます。これらの取組はタクシー事業者さん及び伊予鉄さんにご協力いただいているとのことである。委員の方々、何かご質問等はあるか。

各委員： <質問・意見なし>

会長： 今年度も様々な取組を予定しておられるようなので、今後とも頑張ってくださいと思う。他にご意見がないようなので、以上でみんなの公共交通を考える会の活動報告について終わる。

4. その他

会長： 協議・報告事項は以上であるが、せっかくの機会であるので、今回ご出席いただいている、愛媛運輸支局さんに最近の状況等について少しお話をいただければと思う。

菊池： 補助制度の話で、ここ数年、政府の目標との整合だと思いが外客来訪の促進計画との整合を求められたり、生産性の向上として、その取組に関する目標数値の記載を求められたりといった要綱の変化が見られる。補助金の申請の条件などが、その時代によって変化しているというのを感じる場所である。その他、国土交通省では、生産性向上につながる取組を、生産性革命プロジェクトとして掲げ、現在31のプロジェクトが進んでいる。具体的には、コンパクトプラスネットワーク、タクシー・バスにおける生産性・利便性向上、車のICT革命、公共交通分野におけるオープンデータ化の推進、官民連携データ活用によるモビリティサービスの強化などがある。これらの取組は平成28年度より始まっており、平成29年を前進の年、平成30年を深化の年、そして本年を完結の年としている。また、昨年11月より、地域交通フォローアップ・イノベーション検討会を開催し、地方部での公共交通利用減少、公共交通事業者の赤字運営のもとでの高齢者、学生等の利用者の確保、多くの交通事業者の慢性的な赤字構造や、運転手等の人手不足などを課題として、持続可能で、地域最適な利便性の高い交通ネットワークの維持、確保を実現することを可能とする政策の在り方等を幅広く検討している。いずれも国土交通省のホームページ上で閲覧できるので、またご覧いただければと思う。あわせて、最近高齢者の事故をテレビなどで見るのが多くなり、免許返納が進んでいるので、公共交通への期待がさらに高まっていると感じている。人口減少やドライバー不足など、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しているが、交通弱者の生活を守るため、皆様には引き続きご協力いただきたいと思います。

会 長： 愛媛運輸支局さんから、最近の現状などをご報告いただいたが、何か質問等はあるか。

各 委 員： <質問・意見なし>

会 長： なければ、続いて伊予鉄さんより、事業者の立場として今の状況等をご説明いただければと思う。

竹 中： 昨年もこの協議会に参加させていただいて、同じような話になるかもしれないが、バス業界は色々な問題を抱えており、その一つとして、人材不足による運転士不足が深刻化している。これは、バスだけではなく、トラックやタクシー業界でも同じだと思うが、なかなか手がいない状況で、かなり人材不足に悩まされている。そうはいっても、路線バスは運休したりしたことがないじゃないかと思う人もいるかもしれないが、それは今いる運転士が休日出勤をしたり、本来は路線バスの赤字を補う、採算性の良い貸し切りバスの業務をお断りして路線バスを走らせてたりしており、運転士の要員不足による収支の悪化が最近非常に多くなっている。もう一つは、先ほど高齢者の事故の件が出ていたが、同じように、最近特に運転士の健康に起因するバスの事故も一度起きると全国ニュースになるということで、いろいろハード、ソフトの両面対策を講じている。例えば、ハード面では、全車のドライブレコーダー搭載はもちろんのこと、皆さんご存知ないかもわからないが、最近出荷された新しいバスには、乗務員が意識を失ったり、様子がおかしくなったりすると、乗客がバスを強制的にとめることができる装置がついていたりする。この先、出荷されるバスには運転士のドライバーモニターというものがついており、運転士が意識を失ったり、居眠りしたりといった状況をバスが感知すると数秒後にバスが止まるといった装置がついてくる。このようなものは、今後は標準的についてくるので、バスを利用されるお客様は安心してバスに乗っていただけたらと思うが、反面、車両価格はどんどん上がっているので、安全を確保するためにはお金がかかるという状況である。また、ソフト的な面というと、最近運転士が意識を失ったために起こった事故が神戸の方でも起こっていたのでご存知かと思うが、そのような事故が起こらないようにするために、これは法律で決まっているわけではないが、伊予鉄では通常健康診断に加えて、45歳から、全員5年ごとにドックを受けるようになってきている。お金はかかるが、お客様の安全を確保するためにやむを得ない投資ということで実施している。安全にもお金がかかり、車両にもお金がかかり、運転士はなかなか集まらないという状況で、非常に苦しい経営状況ではあるが、東温市においては、公共交通を維持していこうという熱い思いがあり、これは他の市町村にはなかなかないものである。先ほど横手委員が発表をされたが、「みんなの公共交通を考える会」のような活動は、他の市町村ではまず見られないもので、大変頭の下がる思いである。やらないよりはなにかやった方がましということをおっしゃられていたが、そのようなことはなく、このような活動が路線バスを維持していく一つの心の支えになっており、このような活動がなければもしかして、ということが考えられる状況なので、このような小さな活動でも一つ一つ続けていただけて、逆に我々の路線バスを見捨てないようにご協力をいただけたらお願いしたいと思う。

- 会 長： 事業者の実情もなかなか厳しい状況であるとのことであるが、この会では極力公共交通を利用するようにしていきたいと思う。先ほどの伊予鉄さんの説明に関してなにか質問等はあるか。
- 横 手： 免許返納をされた方へのＩＣい〜カードの配布を松前町や東温市で行っていると思うが、それは市と伊予鉄が連携して行っているのか。
- 事 務 局： 免許を返納したタイミングで、松山南警察署や東温市役所等で申請ができるが、ＩＣい〜カードに関しては、５０００円分購入して申請者に郵送する形であると思う。金額はデポジットの５００円を含んだ額になっているので、実際に利用できるのは４，５００円分である。
- 横 手： その制度を市民には周知しているのか。
- 事 務 局： 制度が始まった時に、市の広報やホームページ上で周知を行っている。制度自体は平成２９年９月から始まっている。
- 会 長： 他に質問や意見等はあるか。
- 各 委 員： <質問・意見なし>
- 会 長： ないようであるので本日の協議、報告事項は終わらせていただく。

5. 閉会

- 進 行： 以上で令和元年度第１回東温市地域公共交通活性化協議会を閉会する。